

令和4年度 学校評価報告書（目標設定 **実施結果**）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価（3月27日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①共通教科の基礎学力の定着を図るとともに、学習内容を精選し、多様な進路選択に対応できる学力の向上を図る。</p> <p>②言語活動の充実を図り、生徒の学習意欲を引き出すとともに、達成感を持たせ、主体的に学ぶ姿勢や態度を養い、自信と自己肯定感を育む。</p>	<p>①基礎学力の定着と生徒の進路実現に結び付く教育課程の計画的な実施を図る。</p> <p>②わかる授業を実践し、生徒の学習意欲と主体的に学ぶ姿勢を高め、自己肯定感を育む。</p>	<p>①両科併置の視点から、新学習指導要領にもとづく教育課程の編成に努める。</p> <p>②校内研究授業や授業研究会を継続して実施する。</p> <p>③ICT機器を活用し、教科・科目で共用できる授業スライドや動画などの教材研究、作成を図る。</p>	<p>①令和4年度入学生の進路希望や実態を把握し、両科で履修可能な選択科目を設置することができたか。</p> <p>②教材の共有化を含め、組織的な授業改善を図ることができたか。</p> <p>③教科・科目間の連携を進め、組織的なICT機器を活用した教材研究、教材作成を図ることができたか。</p>	<p>①令和4年度入学生の普通科の理系の教育課程について生徒の進路希望の実態から見直しを行った。</p> <p>②9月に授業見学期間、11月に校内研究授業及び授業研究会を継続して実施した。</p> <p>③学校外の機関を活用した授業づくりを行った。</p> <p>④科目担当者間で共用できる動画などの教材を作成し、Google クラウドにより配信できた。</p>	<p>①令和4年度生からの教育課程について検証し、生徒の進路実現に結び付く教育課程の編成に努める。</p> <p>②11月に校内研究授業や授業研究会を継続して実施し、授業改善に努める。</p> <p>③学校外の機関を活用した授業を実施するとともに教科・科目間の連携を進め、共用できる教材の作成を図る必要がある。</p>	<p>①本校生徒の実態及び進路実現を踏まえて教育課程を編成した点は評価できる。今後も生徒の実態を踏まえて、適切に行ってもらいたい。</p> <p>②学校全体として、研究授業や授業研究会を実施して授業改善が行われていることは評価できる。</p> <p>③ICT機器の効果的な利用に対する提言を、担当部署及びスキルの高い教員が中心となり学校全体としてのレベルアップすることを期待する。</p>	<p>①生徒の実態に応じて教育課程の一部を変更したが、今後も生徒の実態を把握することが必要である。</p> <p>②授業研究会等の実施もあり、生徒による授業評価については全項目に渡り、後期のポイントが上回っているため、今後も継続していくことが必要である。</p> <p>③長期休業中に一部の教科で動画配信による補習を展開するなど新たな試みを実施したことは成果である。また、一人一台端末導入により、今後はより一層ICT機器の効果的な利用が必要となるので学校全体として対応していく必要がある。</p>	<p>①今後も生徒の実態を把握しながら必要に応じて適切な教育課程を編成するとともに学習成果を可視化する。</p> <p>②総合ビジネス科と普通科を併設する本校の特色を活かしてICT機器の効果的な利用を実現し、学校全体としてのICT機器に対するスキルアップのために担当部署が中心となり校内研修会を実施する。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①生徒の課題に応じた知識を身に付けさせ、個に応じた組織的な指導体制を充実させる。</p> <p>②ビジネスマナー教育を大きな柱とし、基本的な生活習慣を身に付けさせ、学校行事や部活動を通して、社会で活躍できる健全な人材を育成する。</p>	<p>①生徒の支援や教育相談が増えたので、職員の研修やケース会議を行えるよう、情報共有を行う機会を計画する。</p> <p>②学校行事や部活動を通して、相手を尊重する気持ちや自分の役割を果たす能力を身に付けさせる。また、学校行事や部活動の活性化を図っていく。</p>	<p>①生徒のケースにより、SSWや外部機関につなげて、支援を受けることができるようにする。</p> <p>②生徒が主体的かつ積極的に活動できる支援を行うとともに、教職員と生徒会本部役員が連携を密にし、学校行事を円滑に進め、部活動の発展に寄与する。</p>	<p>①教育相談コーディネーターを中心に、学校生活を送る上で生徒や保護者の支援を適切に行うことができたか。</p> <p>②学校行事を行った後のアンケート結果から生徒の充実感を読み取ることができたか。また、昨年度と比較して、部活動加入率が向上しているか。</p>	<p>①生徒及び保護者支援のために、ケース会議を開き、SSWと連携して支援につなげることができた。</p> <p>②生徒が主体的かつ積極的に行事へ参加できるよう、生徒会本部役員と協議を重ね、各種行事を開催した。</p> <p>③空手同好会の発足や邦楽部の強化指定部活動の認定等を行い、部活動の活性化につなげた。</p>	<p>①ケース会議での対象生徒に関して、進級や卒業に向けて支援をし、進路を含めて相談を継続させていく必要がある。</p> <p>②学校行事のアンケートを通じて、今後改善すべき点を引き続き検討するとともに、教職員と生徒（本部役員）が強い連携をとる必要がある。</p> <p>③部活動活性化の方策を今後も検討していく。</p>	<p>①日常生活において課題となる生徒の様々な問題に対して、粘り強く丁寧に対応しているため、今後も継続してもらいたい。</p> <p>②ここ数年、例年通り実施できなかった学校行事を、今年度は通常開催することができたことは良かった。また、今年度開催した百周年記念事業において生徒に発表を行う機会を提供したことは評価できる。</p>	<p>①SSWと連携した件数が2件、またケース会議を開催して生徒進路を含めた支援を今後も継続していくことが必要である。</p> <p>②今後も通常通り学校行事を継続していくことで、円滑な行事運営を行う。</p> <p>③新たな部の設立や強化指定部活動の展開により、この数年続いた部活動加入率減少傾向については、歯止めがかかった。</p>	<p>①次年度は、スクールカウンセラーだけでなくSSWも週1回来校することとなり、教育相談コーディネーターとともに学校全体として情報共有及び生徒の支援を行う。</p> <p>②部活動の充実を目指して新たに部を設立して生徒の活動の場を提供しているが、職員定数の問題もあり、部活動インストラクター等をさらに有効活用する。</p>
3 進路指導・支援	<p>①確かな勤労観や職業観を身に付けさせるため、成長段階に応じた継続性のあるキャリア教育を推進する。</p> <p>②生徒の希望する進路を実現するため、教科指導と連携した進路指導の充実を図る。</p>	<p>①感染状況に注意しながらも、外部講師等を招いてのガイダンスや講演会を計画的に行い、進路意識の向上を図る。</p> <p>②各教科と連携の中で進路指導に関連する内容の充実を図る。</p>	<p>①外部講師や企業の選定について、より生徒に効果的な学校や企業を意識して選定する。</p> <p>②希望校や企業の選択や志望理由の作成についても、教科と協力し進めていく。</p>	<p>①進路行事のアンケート結果から、生徒の充実感を量ることができたか。</p> <p>②生徒の進路選択や志望理由の作成において、効果をあげることができたか。</p>	<p>①外部講師や企業の選定では、直近の情報や出願等の対応、近年の就職状況を考慮して決定した。</p> <p>②授業の中で扱うことにより、生徒の視野を広げることになり、進路選択や志望理由に繋げることができた。</p>	<p>①講師として依頼したい上級学校や企業があっても、先方との予定が合わず調整に課題がある。</p> <p>②教科指導も確保しながら、進路指導に繋がる内容を扱うにも、その割合と担当者の負担も考慮に入れる必要がある。</p>	<p>①生徒の進路実現のために様々な行事を展開しているが、生徒及び保護者に対して行事の趣旨や目的などをもう少し分かりやすくアピールすることが必要である。</p> <p>②進路実現に対して生徒の志望理由等を明確にする指導が授業内や面接指導が必要であるため、校内で丁寧に指導することが必要である。</p>	<p>①アンケート結果から、生徒の満足度はある程度高かったが、先方の都合もあり、生徒が希望する上級学校を思うように集めることができなかったことが課題である。また、新型コロナウイルス感染症対策のために、希望していた体験を実現できなかった。</p> <p>②次年度は生徒への指導時間をしっかりと確保するために、文化祭の時期を変更した。</p>	<p>①生徒及び保護者に対して、その行事の目的や趣旨などをもう少し分かりやすくして3年間の進路指導の流れを提示する。</p> <p>②次年度は生徒への指導時間をしっかりと確保するために、文化祭の時期を変更した。（再掲）</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月27日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
4	地域等との協働	<p>①地域との相互交流を進め、地域に根ざした学校づくりを推進する。</p> <p>②様々な機会を活用し、広報活動の充実を図り、地域や近隣小中学校への情報発信に努める。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、できることを模索し、地域との交流を図る。</p> <p>②外部との連携事業に積極的に参加し、本校のPRを行っていく。また、中学校にも訪問し、情報発信していく。</p>	<p>①地元自治会との交流や清掃ボランティアなどに積極的に参加して、地域との交流を行っていく。</p> <p>②県西地区の説明会や中学校へ出張授業などにも積極的に参加し、本校のPRを行う。また、SNS等も利用していく。</p>	<p>①地元自治会や清掃ボランティアに参加した生徒にアンケート等を実施し、満足度90%以上であったか。</p> <p>②出張授業や説明会のアンケートを中学生に実施し、満足度90%以上であったか。</p>	<p>①地域の自治会との交流は、実施できなかった。清掃ボランティアに関しては、有志の部活動で参加する形となった。</p> <p>②各中学校へ出張授業の案内を行ったが、中学校からの依頼がこなかった。SNSの活用は行うことができた。</p>	<p>①感染症の考えも変わってきたので、次年度は積極的に地域の自治会や小田原市と交流を行っていく。</p> <p>②中学校から依頼に応じて、説明会などを実施してきたが、次年度はこちら側から積極的に働きかけを行い、訪問しての説明会や出張授業などを行っていく必要がある。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症の状況も変化してきた中で、可能な範囲で実施できたことは評価できる。</p> <p>②県西地区の中学生が減少している状況もあり、今後は学校説明会の時期や形態等について見直すことも必要である。</p>	<p>①感染症対策をとりながら、地域貢献活動及び部活動を中心として地域と協働の海岸清掃等を実施した。今後も、積極的に実施していく。</p> <p>②本校の教育活動を積極的に情報発信するためにInstagramを活用した。</p> <p>③本校の特色をアピールするために中学校の要望に応じて説明会に出向いた。本校から出張授業を積極的に中学校に出向くことを申し入れたが、中学校側から受入れに関する要望は少なかった。</p>	<p>①感染症対策をとりながら、地域貢献活動及び部活動を中心として地域と協働の海岸清掃等を実施した。今後も、積極的に実施していく。(再掲)</p> <p>②来年度については秋の学校行事を見直して、学校説明会をもう少し早い時期に設定する。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①学校周辺の環境に配慮した災害への安全対策を一層強化させる体制整備を推進する。</p> <p>②事故・不祥事を起こさない、風通しの良い職場環境を整備するとともに、働き方改革を進め、職員・生徒が夢を持ち、夢の実現のため生き生きと活動できる学校づくりを推進する。</p>	<p>①有事の際、職員や生徒が地域の方にどのような形で防災協力の行動できるかを、具体的に考えられるようにする。</p> <p>②職員間のコミュニケーションを密にし、小さい異変に気付けるような職場環境を構築し、事故などを未然に防げるようにする。</p>	<p>①実践型の防災訓練などを通じて、基本的な防災知識を身に付けるとともに、地域とどのような関わりを持てるかを考えられる訓練方法を模索する。</p> <p>②事故・不祥事を未然に防ぐために、研修会などの機会を定期的に設け、職員の意識を高める。</p>	<p>①訓練事後の感想などから、生徒自らの防災・減災意識が高まっているか。また、地域との関わりについて考えることができたか。</p> <p>②職員の事故・不祥事に対する意識の向上を図るため、定期的な研修会などを通じてそれが功を成しているか。</p>	<p>①生徒と地域の方との防災協力を想定した行動は取れなかった。有事の際に本校は、生徒だけでなく地域の方の避難場所になっていることは周知した。</p> <p>②職員会議時及び定期的に事故・不祥事に関する研修を行った。また、職員間のコミュニケーションは取りやすい雰囲気醸成されつつあるが、今後とも風通しのよい環境づくりが必要である。</p>	<p>①地域の方との関わりについて、コロナ禍ということもあり実現が厳しい状況であった。コロナ禍から脱却したところで、再度訓練などの在り方を検討する必要がある。</p> <p>②入学者選抜業務をはじめ、ダブルチェックを確実に行うなどの対応により、事故・不祥事を未然に防ぐことができた。今後、この姿勢を維持していくことはもちろん、職員の意識をさらに継続できる体制づくりも行う。</p>	<p>①地域の状況から判断すると、地域住民と連携して避難訓練を実施することは必須であり評価できる。今後も、地域と連携して防災事業を展開する必要がある。</p> <p>②不祥事防止研修会を定期的に実施して職員の意識向上に努めていることは評価できる。今後はより一層、風通しの良い職場づくりをめざして、不祥事防止に取り組むことを期待する。</p>	<p>①津波想定避難訓練では、地域住民及び地域の支援センター(合計〇名)が参加して実施した。地域住民の災害に対する意識に比べ、生徒の防災に対する意識は低いように思われるので、継続的に意識づけをすることが課題である。</p> <p>②不祥事防止のために、進路指導業務に係る業務進行状況管理表を作成した。また、入学者選抜業務については、マニュアルを活用して事前に研修会等を実施するとともに、ダブルチェックにより不祥事防止に努めた。</p>	<p>①地域住民の災害に対する意識に比べ、生徒の防災に対する意識は低いように思われるので、継続的に意識づけをすることが課題である。(再掲)</p> <p>②事故・不祥事を防止するためには、「報告・連絡・相談」が不可欠であり、これを徹底すること及び職員全体で事前の準備や対応について情報共有しておく必要がある。</p>

